

環境問題小論文攻略ワークブック

完全保存版 | 2025 年入試対応・頻出問題と模範解答集

このワークブックの使い方

3 つの活用法

- 問題演習: 頻出問題 15 題を実際に解く
- データ暗記: 使える数値 50 選を覚える
- 直前対策: 最新時事問題をチェック

推奨学習スケジュール

1 ヶ月前:

- 頻出問題 15 題を解く
- 模範解答と比較
- 弱点を把握

2 週間前:

- データ集 50 選を暗記
- キーワード 100 語を覚える
- テンプレートを使って練習

1 週間前:

- 最新時事問題を確認
 - 実践トレーニング
 - 最終チェック
-

目次

1. 頻出問題 15 題と模範解答
2. 使えるデータ集 50 選
3. キーワード辞典 100 語
4. テーマ別構成テンプレート
5. 2025 年最新時事問題
6. 実践トレーニングシート

1. 頻出問題 15 題と模範解答

【問題 1】地球温暖化対策・基本型

問題文:

地球温暖化対策として、私たちができることは何か。
あなたの考えを 800 字以内で述べよ。

出題大学例: 早稲田大学、慶應義塾大学、明治大学

模範解答 (800 字)

近年、地球温暖化が深刻化している。IPCC 第 6 次報告書によれば、世界の平均気温は産業革命前と比較して 1.1°C 上昇し、このままでは 2030 年代に 1.5°C に達する見込みだ。異常気象の頻度も増加しており、対策は喫緊の課題である。私は、個人の行動変容と社会システムの改革を並行して進める必要があると考える。

第一に、個人レベルでの取り組みが重要だ。日常生活における小さな選択の積み重ねが、大きな変化を生み出す。例えば、省エネ行動の実践だ。LED 照明への切り替えや、エアコン温度の適切な設定により、家庭の CO_2 排出量を年間約 400kg 削減できる。また、移動手段の見直しも有効だ。

自家用車から公共交通機関への切り替えにより、一人当たりのCO2 排出量を 70%削減できる。私自身、昨年から自転車通学に切り替え、年間約 200kg の CO2 削減を実現した。

第二に、社会システムの変革が不可欠だ。個人の努力だけでは限界があり、企業や行政の大規模な取り組みが必要である。最も重要なのは、再生可能エネルギーへの転換だ。日本政府は 2030 年までに電源構成の 36~38%を再エネにする目標を掲げているが、現状は約 20%にとどまる。太陽光や風力発電への投資拡大、FIT 制度の拡充が求められる。また、企業の脱炭素化も急務だ。欧州では、大手企業にCO2 排出削減の義務を課す法律が施行されている。日本でも同様の規制強化が必要だろう。

もちろん、経済への影響も考慮すべきだ。しかし、再生可能エネルギー産業では新たな雇用が生まれている。国際再生可能エネルギー機関の報告では、2030 年までに世界で 4,200 万人の雇用創出が見込まれる。

以上の理由から、地球温暖化対策には、個人と社会の両面からのアプローチが不可欠だ。2050 年カーボンニュートラルの実現に向けて、今こそ行動すべき時だ。私自身も、環境に配慮した消費行動を実践し、持続可能な社会の実現に貢献したい。

字数: 798 字

評価ポイント:

- ☒ データが具体的
- ☒ 個人と社会の両面
- ☒ 自分の体験を含む
- ☒ 経済との両立にも言及

予想得点: 92/100 点

【問題 2】プラスチック問題

問題文:

海洋プラスチック問題の解決に向けて、
どのような取り組みが必要か。800 字以内で論じよ。

出題大学例: 東京大学、京都大学、大阪大学

模範解答 (800 字)

近年、海洋プラスチック汚染が深刻化している。
国連環境計画の報告によれば、年間約 800 万トンのプラスチックが
海洋に流出しており、2050 年には海洋プラスチックの総量が
魚の量を上回ると予測される。この問題に対し、
発生源対策と回収・リサイクルの両面からのアプローチが
必要だと考える。

第一に、使い捨てプラスチックの削減が急務だ。
日本では年間約 900 万トンのプラスチックが生産され、
そのうち約 40%が容器包装用だ。レジ袋有料化により、
国内のレジ袋使用量は約 30%減少したが、更なる対策が必要だ。
具体的には、ペットボトルの削減が重要である。
日本では年間約 230 億本が消費されているが、マイボトルの
普及により大幅な削減が可能だ。私自身、マイボトルを
使い始めてから、年間約 200 本のペットボトル削減を実現した。

第二に、代替素材の開発と普及が重要だ。バイオプラスチックや
紙製ストローなど、環境負荷の低い素材への転換が進んでいる。
しかし、コスト面での課題があり、普及は限定的だ。
政府による研究開発支援や、企業への導入補助金など、
社会全体での取り組みが必要である。

第三に、既に海洋に流出したプラスチックの回収も欠かせない。
オランダの団体「オーシャンクリーンアップ」は、
大型の回収装置で太平洋のゴミベルトからプラスチックを
回収している。日本でも、漁業者や市民団体による

海岸清掃活動が広がっているが、更なる支援が必要だ。

さらに、国際的な協力が不可欠である。海洋プラスチックは国境を越えて漂流するため、一国だけでは解決できない。2022 年、国連で「プラスチック汚染に関する国際条約」の制定に向けた交渉が始まった。日本も積極的に参加し、国際的な枠組みづくりに貢献すべきだ。

以上の理由から、海洋プラスチック問題の解決には、発生抑制、代替素材の開発、回収、国際協力という多角的なアプローチが必要だ。私たち一人ひとりが使い捨てプラスチックの使用を減らし、社会全体で持続可能な仕組みを構築することで、美しい海を次世代に残せると確信している。

字数: 798 字

評価ポイント:

- ☒ 多角的な視点（4 つの対策）
- ☒ 国際的な動向にも言及
- ☒ 具体的な数字が豊富
- ☒ 実践的な提案

予想得点: 90/100 点

【問題 3】経済と環境の両立

問題文:

経済成長と環境保護は両立可能か。
あなたの意見を 800 字以内で述べよ。

出題大学例: 一橋大学、神戸大学、横浜国立大学

模範解答の要点

【序論】

- 従来は対立すると考えられてきた
- しかし、技術革新により両立が可能に
- 立場：適切な政策により両立できる

【本論】

理由 1: グリーン産業の成長

- 再生可能エネルギー産業の雇用創出
- EV 市場の拡大
- 具体例：欧州のグリーンニューディール

理由 2: 効率化による経済効果

- 省エネ技術の発展
- 資源の循環利用によるコスト削減
- 具体例：日本企業の省エネ技術輸出

課題：短期的なコストと長期的利益のバランス

- 初期投資の必要性
- 政府の支援策
- 企業の ESG 経営

【結論】

- 両立は可能だが、政策と投資が必要
- 持続可能な発展こそ真の経済成長
- 決意：環境と経済の調和を目指す

予想得点: 88/100 点

【問題 4】食品ロス削減

問題文:

日本の食品ロス問題について、
原因と対策を論じよ。（800 字以内）

出題大学例: 早稲田大学、立教大学、青山学院大学

模範解答の要点

【序論】

- 日本の食品ロス: 年間約 600 万トン
- 国民一人当たり毎日お茶碗 1 杯分
- 問題意識と立場

【本論】

原因 1: 過剰生産と在庫

- 小売業の「3 分の 1 ルール」
- 見た目重視の消費者意識

原因 2: 家庭での廃棄

- 買いすぎ、作りすぎ
- 賞味期限の誤解

対策 1: 社会システムの改善

- フードバンクの拡充
- 賞味期限表示の見直し
- 具体例: フランスのスーパー廃棄禁止法

対策 2: 消費者の意識改革

- 計画的な購入
- 食べ切る工夫
- 具体例: 自分の実践

【結論】

- 社会と個人の両面から対策
- もったいない精神の再評価
- 持続可能な社会への貢献

予想得点: 85/100 点

【問題 5】再生可能エネルギー

問題文:

日本における再生可能エネルギー普及の課題と展望について論じよ。（800 字以内）

出題大学例: 東京工業大学、筑波大学、千葉大学

模範解答の要点

【序論】

- 日本の再エネ比率: 約 20% (2023 年)
- 2030 年目標: 36~38%
- 課題と展望を論じる

【本論】

課題 1: コストと安定供給

- 発電コストの低下は進むが課題残る
- 天候依存による不安定性
- 蓄電技術の必要性

課題 2: 送電網の整備

- 地域間の送電容量不足
- 再エネ適地と消費地のギャップ

課題 3: 既存産業への影響

- 火力発電所の段階的廃止
- 雇用の転換

展望 1: 技術革新

- 太陽光パネルの効率向上
- 洋上風力の可能性
- 具体例: 日本の洋上風力計画

展望 2: 地域分散型電源

- 地産地消のエネルギー

- 地域経済の活性化

【結論】

- 課題は多いが、解決可能
- 技術革新と政策支援が鍵
- 2050 年カーボンニュートラルへ

予想得点: 87/100 点

(問題 6～15 は実際の教材では完全収録)

2. 使えるデータ集 50 選

地球温暖化関連(15 個)

データ 1: 気温上昇

【数値】

産業革命前比で 1.1℃上昇 (2020 年時点)
2030 年代に 1.5℃到達の見込み

【出典】

IPCC 第 6 次報告書 (2021 年)

【使い方】

「IPCC 報告書によれば、世界の平均気温は既に 1.1℃上昇しており、このままでは 2030 年代に 1.5℃に達する見込みだ」

データ 2: CO2 排出量

【数値】

世界全体: 年間約 360 億トン
日本: 年間約 11 億トン (世界第 5 位)
一人当たり: 約 8.5 トン

【出典】

国際エネルギー機関（IEA）2023 年

【使い方】

「日本は年間約 11 億トンの CO2 を排出し、
世界第 5 位の排出国として削減の責任がある」

データ 3: 異常気象の増加

【数値】

過去 50 年で異常気象の発生頻度 5 倍に
洪水・干ばつによる経済損失: 年間数兆円

【出典】

世界気象機関（WMO）2022 年

【使い方】

「気候変動により異常気象の頻度が
過去 50 年で 5 倍に増加し、深刻な被害が発生している」

データ 4: 海面上昇

【数値】

20 世紀に約 20cm 上昇
今世紀末までに最大 1m 上昇の可能性

【出典】

IPCC 報告書

【使い方】

「海面上昇により、太平洋の島嶼国では
居住可能地域が減少している」

データ 5: 北極海の氷

【数値】

過去 40 年で約 40%減少
夏季には完全に消失する可能性

【出典】

NASA 衛星観測データ

【使い方】

「北極海の氷は過去 40 年で約 40%減少し、生態系への影響が懸念される」

プラスチック問題関連(10 個)

データ 6: 海洋プラスチック流出量

【数値】

年間約 800 万トンが海洋に流出
2050 年には海洋プラスチック>魚の量

【出典】

国連環境計画 (UNEP)

【使い方】

「年間 800 万トンのプラスチックが海に流出し、2050 年には魚の量を上回ると予測される」

データ 7: レジ袋使用量

【数値】

有料化前: 年間約 450 億枚 (日本)
有料化後: 約 30%減少

【出典】

環境省調査 (2021 年)

【使い方】

「レジ袋有料化により使用量が約 30%減少したが、更なる対策が必要だ」

データ 8: ペットボトル消費量

【数値】

日本：年間約 230 億本消費
リサイクル率：約 85%（ただし多くが熱回収）

【出典】

PET ボトルリサイクル推進協議会

【使い方】

「日本では年間 230 億本のペットボトルが消費され、
マイボトルの普及が急務だ」

エネルギー関連(10 個)

データ 9: 再エネ導入目標

【数値】

日本政府目標：2030 年に 36～38%

現状：約 20%（2023 年）

ギャップ：約 17 ポイント

【出典】

経済産業省エネルギー白書

【使い方】

「政府は 2030 年までに再エネ比率 36～38%を
目標とするが、現状 20%で加速が必要だ」

データ 10: 太陽光発電コスト

【数値】

2010 年：約 40 円/kWh

2023 年：約 10 円/kWh（75%減）

火力発電と同等レベルに

【出典】

国際再生可能エネルギー機関（IRENA）

【使い方】

「太陽光発電のコストは 10 年で 75%低下し、

火力発電と競争可能になった」

食品ロス関連(10 個)

データ 11: 食品ロス量

【数値】

日本: 年間約 600 万トン

家庭系: 約 280 万トン

事業系: 約 320 万トン

一人当たり: 毎日お茶碗 1 杯分

【出典】

農林水産省・環境省 (2020 年度)

【使い方】

「日本では年間 600 万トンの食品が廃棄され、
一人当たり毎日お茶碗 1 杯分に相当する」

生物多様性関連(5 個)

データ 12: 絶滅危惧種

【数値】

世界: 約 41,000 種が絶滅危惧

過去 50 年で野生動物の個体数 68%減少

【出典】

WWF「生きている地球レポート 2022」

【使い方】

「過去 50 年で野生動物の個体数が平均 68%減少し、
生物多様性の危機が深刻化している」

(データ 13～50 は実際の教材では完全収録)

3. キーワード辞典 100 語

地球温暖化・気候変動(25 語)

1. 地球温暖化

意味：地球全体の平均気温が上昇する現象

使い方：「地球温暖化により異常気象が増加している」

2. 温室効果ガス

意味：地球の熱を閉じ込めるガス（CO₂、メタンなど）

使い方：「温室効果ガスの削減が急務だ」

3. IPCC（気候変動に関する政府間パネル）

意味：国連の気候変動評価機関

使い方：「IPCC 報告書は気候変動の科学的根拠を示す」

4. パリ協定

意味：2015 年採択の気候変動対策の国際枠組み

使い方：「パリ協定では 2°C 目標が設定された」

5. 1.5°C 目標

意味：産業革命前比で気温上昇を 1.5°C に抑える目標

使い方：「1.5°C 目標の達成には大幅な排出削減が必要だ」

6. カーボンニュートラル

意味：CO₂ 排出量と吸収量を均衡させること

使い方：「2050 年カーボンニュートラルを目指す」

7. 脱炭素社会

意味：化石燃料に依存しない社会

使い方：「脱炭素社会への転換が求められている」

8. 異常気象

意味：通常と大きく異なる気象現象

使い方：「異常気象の頻度が増加している」

9. 気候変動適応策

意味：気候変動の影響に備える対策

使い方：「緩和策と適応策の両方が必要だ」

10. カーボンプライシング

意味：CO2 排出に価格をつける政策

使い方：「カーボンプライシングで企業の行動変容を促す」

(11～25 は実際の教材では完全収録)

再生可能エネルギー(20 語)

26. 再生可能エネルギー

意味：枯渇しないエネルギー源

使い方：「再生可能エネルギーへの転換が進んでいる」

27. 太陽光発電

意味：太陽光を電力に変換

使い方：「太陽光発電のコストが低下している」

28. 風力発電

意味：風の力で発電

使い方：「洋上風力発電の可能性が注目される」

29. FIT 制度（固定価格買取制度）

意味：再エネの電力を固定価格で買い取る制度

使い方：「FIT 制度により再エネ導入が促進された」

30. エネルギーミックス

意味：複数のエネルギー源を組み合わせること

使い方：「バランスの取れたエネルギーミックスが重要だ」

(31～45 は実際の教材では完全収録)

プラスチック・循環型社会(20 語)

46. 海洋プラスチック

意味：海に流出したプラスチックごみ

使い方：「海洋プラスチック汚染が深刻化している」

47. マイクロプラスチック

意味：5mm 以下の微細なプラスチック

使い方：「マイクロプラスチックが生態系に影響する」

48. 3R

意味：リデュース・リユース・リサイクル

使い方：「3R の推進が循環型社会の基本だ」

49. 循環型社会

意味：資源を循環させる社会

使い方：「循環型社会の構築が求められている」

50. バイオプラスチック

意味：生物由来のプラスチック

使い方：「バイオプラスチックへの代替が進んでいる」

(51～65 は実際の教材では完全収録)

その他重要語彙(35 語)

66. SDGs (持続可能な開発目標)

67. ESG 経営

68. グリーンニューディール

69. 食品ロス

70. 生物多様性

... (続く)

4. テーマ別構成テンプレート

テンプレート 1: 問題解決型

適用テーマ: 温暖化対策、プラごみ削減、食品ロスなど

【序論】

問題の現状: _____

深刻さ: _____

立場: ○○と△△の両面から対策が必要

【本論】

対策 1 (個人レベル): _____

具体例: _____

効果: _____

対策 2 (社会レベル): _____

具体例: _____

効果: _____

課題と対応: _____

【結論】

両面からのアプローチの重要性

決意・展望

テンプレート 2: 賛否型

適用テーマ: 経済と環境の両立、原発再稼働など

【序論】

議論の背景: _____

対立する意見: _____

自分の立場: ○○の立場から論じる

【本論】

賛成の理由 1: _____

具体例: _____

賛成の理由 2: _____

具体例: _____

反対意見への反論: _____

バランスの取り方: _____

【結論】

立場の再確認

条件・留保事項

展望

テンプレート 3: 原因分析型

適用テーマ: なぜ環境問題は深刻化するのか

【序論】

現象の説明: _____

問題意識: _____

分析の視点: ○○の観点から分析

【本論】

原因 1: _____

背景: _____

影響: _____

原因 2: _____

背景: _____

影響: _____

根本原因: _____

【結論】

原因の総括

対策の必要性

5. 2025 年最新時事問題

トピック 1: COP29 の成果

【2024 年 11 月開催】

第 29 回国連気候変動枠組み条約締約国会議

【主要な合意】

- 2030 年までの削減目標の強化
- 途上国への気候資金支援の拡大
- 化石燃料からの段階的脱却

【小論文での使い方】

「2024 年の COP29 では、化石燃料からの段階的脱却で合意され、国際的な取り組みが加速している」

トピック 2: 日本の再エネ導入加速

【2024 年実績】

洋上風力発電の大型プロジェクト始動
太陽光パネルの国内生産回帰

【データ】

2024 年の再エネ比率: 約 23% (前年比 3 ポイント増)

【小論文での使い方】

「日本でも洋上風力などの大型プロジェクトが始動し、再エネ導入が加速している」

トピック 3: プラスチック新条約交渉

【2024 年進展】

「プラスチック汚染に関する国際条約」交渉継続
2025 年の条約採択を目指す

【焦点】

- プラスチック生産量の上限設定
- 使い捨てプラスチックの規制
- 拡大生産者責任の強化

【小論文での使い方】

「2025 年にはプラスチック汚染に関する
国際条約の採択が見込まれ、規制が強化される」

(トピック 4～10 は実際の教材では完全収録)

6. 実践トレーニングシート

Week 1: 基礎固め

Day 1: データ暗記（地球温暖化）

- ☐ 気温上昇 1.1℃を暗記
- ☐ CO2 排出量 360 億トンを暗記
- ☐ 日本の排出量 11 億トンを暗記
- ☐ 2030 年 1.5℃到達を暗記
- ☐ ミニテスト実施（自己採点）

学習時間： ____分

正答率： ____%

Day 2: キーワード暗記

- ☐ 地球温暖化関連 10 語
- ☐ 再生可能エネルギー関連 10 語
- ☐ プラスチック関連 10 語

覚えた語数： ____語

使えそうな語： ____語

Day 3: 序論練習

課題: 以下のテーマで序論を 150 字で書く

テーマ 1: 地球温暖化対策

テーマ 2: プラスチック削減

テーマ 3: 再エネ導入

所要時間: ____分

自己評価: ____/10 点

Week 2: 実践演習

Day 8: 問題 1 挑戦

問題: 「地球温暖化対策」(800 字・60 分)

実施時間: ____分

字数: ____字

自己採点: ____/100 点

使用したデータ数: ____個

使用したキーワード数: ____語

改善点:

1. _____
 2. _____
 3. _____
-

Day 9: 模範解答分析

- ☐ 模範解答の構成を分解
- ☐ 使われているデータをチェック
- ☐ 表現をストック

学んだ表現:

1. _____
2. _____

3. _____

Week 3: 応用練習

Day 15: 複数テーマ演習

午前: プラスチック問題 (800 字)

午後: エネルギー問題 (800 字)

所要時間:

問題 1: ____分

問題 2: ____分

自己採点:

問題 1: ____/100 点

問題 2: ____/100 点

Week 4: 総仕上げ

Day 22: 模擬試験

制限時間: 60 分

問題: ランダムに 1 題選択

実施結果:

字数: ____字

時間: ____分

自己採点: ____/100 点

チェック項目:

- ☐ データを 3 つ以上使用
 - ☐ 個人と社会の両面から論述
 - ☐ 具体例を 2 つ以上使用
 - ☐ 結論が力強い
-

まとめ: ワークブック活用の 5 つのポイント

ポイント 1: データは最低 30 個暗記

- ☐ 地球温暖化: 10 個
- ☐ プラスチック: 10 個
- ☐ エネルギー: 10 個
- ☐ その他: 10 個

暗記したデータ数: ____ 個

ポイント 2: 毎週 1 題は書く

- ☐ Week 1: 1 題
- ☐ Week 2: 2 題
- ☐ Week 3: 3 題
- ☐ Week 4: 模擬試験

累計執筆数: ____ 題

ポイント 3: 模範解答を徹底分析

- ☐ 構成を分解
 - ☐ データの使い方を学ぶ
 - ☐ 表現をストック
 - ☐ 自分の言葉に置き換える
-

ポイント 4: 最新情報を追う

- ☐ 週 1 回ニュースチェック
 - ☐ 環境関連ニュースをメモ
 - ☐ 小論文に使えるか判断
-

ポイント 5: 添削を受ける

- ☐ 先生に添削依頼
 - ☐ 友人と読み合い
 - ☐ フィードバックを記録
 - ☐ 次回の執筆に活かす
-

このワークブックを使いこなせば、**環境問題テーマで必ず合格点が取れます！**

データを暗記し、テンプレートを使いこなし、何度も練習して完璧な答案を書けるようになりましょう。

あなたの合格を心から応援しています！

© 2025 環境問題小論文研究会

本ワークブックは個人の学習目的での使用に限り、自由にご利用いただけます。